

## 1-1. 保全活動の推進効果の検証

## 【本議題の目的】

全国各地で行われている活動団体等による様々な取組は、国内の里地里山の恵みを未来に引き継いでいくうえで重要な役割を担うものであるため、活動主体自らが取組を評価することにより活動を継続・拡大していけるような指標や評価手法を検討し、里地里山保全の取組の活性化を図る。

⇒本年度調査結果をもとに、活動団体等が自らの活動評価を行うための「活動の自己評価シート」を作成

## ■個々の活動団体による活動の自己評価

## &lt;アンケート調査(※)&gt;

## 1. 活動団体の活動状況

・どんな場所で、どんな人々が、どんな取組を行っているか

2. 調査対象活動団体に見る取組の成果  
(全体としての評価)

○活動団体の活動の変化

・活動日数や取組面積  
・参加人数、構成員の多様さ

○取組目的からみた状況の変化

(1)農林業を通じた持続的な管理・利用  
(2)野生動植物やその生息地の保全・管理  
(3)良好な景観の保全、伝統的生活文化の  
智恵や技術の継承  
(4)環境教育や自然体験、エコツーリズム等  
の場としての利用

## 3. 活動団体自身による総合評価

○目的達成状況  
○取組による効果、満足度

アンケート調査  
の結果分析

\* 取組効果の  
測定・評価の  
ための  
**有効な  
指標項目**  
について検討

\* 取組効果の  
測定・評価の  
ための  
**評価の基準**  
について検討

(参考参照)

## 「活動の自己評価シート」の作成

活用

活動主体が自らの活動の評価を行う

里地里山保全の取組の活性化

(今後の課題)

◇地方公共団体による施策・事業の  
推進効果の評価

## ①里地里山と人との関わりの度合いの評価

・活動主体や参加者の拡大、多様化  
・里地里山の利用の活発化

## ②里地里山の自然環境の状態に対する評価

・地域レベルの生物多様性や他の環境側面の改善

## ③活動による主体にとっての恩恵・メリットの評価

・活動主体にとっての恩恵やメリット、  
活動の満足度の向上

シートによる評価結果  
の集約・分析

地域レベルでの  
積み上げ

全国レベルでの里地里山の保全活用に寄与

(補足調査)補完が必要な事項等の整理 など

※アンケート調査の目的

活動団体等が自らの活動目的に応じた取組の推進効果について測定・評価し、目標を設定しながら活動を進めていけるような指標や手法を検討する。

# 「里地里山保全活動の自己評価シート」について

＜アンケート調査の実施結果より＞

- ・活動団体の多くは、自身の活動を通じて何かしらの効果が出ている（里地里山保全に貢献している）と認識しており、活動への満足度も高い。
- ・地域住民や学校といった外部の評価を得られることがステータスとなり、活動が活発化すると認識している。
- ・各主体により収集された数量データは分散が大きく、指標とすることは不適。

- \* 回答状況から、設定した指標項目の使い勝手（有効性）を確認することができた。
- \* 指標項目と効果との関係に関する回答状況及び専門的知見等から、評価のための基準を設定することができた。

（今後の課題）

個々に収集されている数量データを集約・活用できるしくみづくり

【評価シート作成のねらい】

- ・個々の活動やフィールドとなる里地里山の状況を自己点検できるよう、意識して活動を進められるとよい汎用性のある指標項目の設定・提示
- ・各主体が対外的に活動をアピールできるよう、客観的評価ができる活動の成果（効果）項目の設定・提示
- ・個々の活動の継続・拡大につながるよう、活動主体自らの評価を踏まえた目標設定とモニタリングの促進

自己評価シートの構成案

<b>I. 活動の概要:</b> ⇒活動主体自身について、団体名称や活動内容、目的などの概要を整理		
1 活動団体の概要（団体名称、組織種別等） 2 団体の具体的な活動内容と活動目的		
<b>II. 活動の自己評価:</b> ⇒自身が行う活動に対して、設定された指標項目に従ってチェックを行う		
シート項目	評価の指標項目	採点の基準
1 活動する里地里山の状況	活動場所面積、土地利用状況	増減、環境状況
2 活動の広がりと多様さ	活動年数、活動頻度など 活動参加者の年齢層、広がり	年数、増減 参加者の多様さ
3 活動目的ごとにみた活動評価 （農林業）→ （景観・文化）→ （環境教育）→ （野生動植物）→	（※1） 従事者数、耕作放棄地面積など 来訪者数、行事（祭事）数など 参加者数、プログラム数など 上位種の有無、外来種有無など	指標把握状況
4 活動により得られた成果	里地里山の適切な保全・管理 活動に対する外部評価 里地里山への理解醸成 など	成果項目の チェック数

**III. 今後（次年度以降）の活動目標:**

⇒ II を踏まえて、主体自ら目標設定を行う

- 1 総合的な活動目標の設定
- 2 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

（客観的評価）  
 ●活動目的に対応して得られた効果  
 指標項目ごとの増減傾向等を基準（※2）  
 にして、目的に応じてどんな効果が得られたかを評価。

把握

（※1）

アンケート調査より、指標項目の把握度合い、活動における重視度の回答状況を基に抽出。

（自己点検）●自己採点

（※2）

アンケート調査結果からみた目的ごとの効果有無と指標の変化との相関度及び専門的知見等により評価の基準を設定。

(参考) 有効な指標項目の検討、評価の基準の検討

アンケート調査票

I (・団体名称、連絡先等)  
(・活動場所の数)  
・活動場所数の変化

II (・活動場所名称、所在地)  
・活動場所の面積  
・活動場所の面積の変化  
・活動場所の土地利用状況

III  
・団体の会員数  
・活動年数  
・活動頻度  
・活動回数の増減  
・活動者の居住地・本拠地等  
・活動者の年齢層  
・活動プログラム・イベント数  
・プログラム等への参加者数の変化  
・活動目的ごとの具体的な活動内容

IV  
(農林業) ・活動の効果有無  
・そう思う理由  
(野生動植物) ・活動の効果有無  
・そう思う理由  
(景観・文化) ・活動の効果有無  
・そう思う理由  
(環境教育) ・活動の効果有無  
・そう思う理由

V 活動目的別指標項目について  
・指標項目の把握有無  
・変化を意識する項目  
・把握項目の数値データ  
・把握項目の変化状況

VI  
・取組を通じた成果  
・取組への満足度

(凡例: 調査結果より、以下の項目の判断根拠を記載)  
指標項目抽出 評価の基準判断

回答率高 満足度との相関有

回答率高 満足度との相関有

回答率高 平均回答数3.3件

回答率高 自由回答等より

回答率高 満足度との相関有

回答率高 平均回答数1.6件

回答率高 平均回答数3.0件

回答率高 満足度との相関有

回答率、自由回答等より

・効果有無と指標の変化との相関度  
・専門的知見等

把握度 把握度高  
重視度 重視度高

回答率、自由回答等より

自己評価シート

I  
1 活動団体の概要  
2 活動内容と活動目的

II  
1 活動する里地里山の状況  
2 活動の広がりと多様さ  
3 活動目的ごとにみた活動評価  
○農林業を通じた持続的な管理・利用  
○良好な景観の保全、伝統的生活文化の智恵や技術の継承  
○環境教育や自然体験、エコツーリズム等の場としての利用  
○野生動植物やその生息地の保全・管理  
4 活動により得られた成果

III  
1 総合的な活動目標の設定  
2 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

